

第 10 回 ITS シンポジウム 2011 ～新しい産業・暮らし・街をつくる ITS～



1.開催概要

- ・開催 2011 年 11 月 4～5 日
- ・於 東京大学 生産技術研究所 総合研究実験棟
- ・主催 ITS Japan
- ・共催 東京大学生産技術研究所 先進モビリティ研究センター
- ・実行委員長 須田 義大 東京大学 生産技術研究所 先進モビリティ研究センター長 教授
- ・プログラム委員長 原田 昇 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 教授
- ・参加者 276 名(学生 57 名, 一般 188 名, 招待者 30 名, 他 1 名)
- ・論文 94 編

2.総括

- ・ITS シンポジウムも今回が第 10 回目となり、主催者、出展者共に経験を重ねてきていることから、特に大きな混乱もなく、滞りなく開催することができた。
- ・一方で従来から指摘されてきたもの、今回改めて参加者から指摘されたものを含めて、次回以降の開催に向けた課題も明らかになった。

①評価できる点

4テーマで行われた企画セッションでは、各テーマに関し専門の異なる参加者に発言していただくことで、議論が散漫になることを防げた。

②課題

- ・企業や学会、団体のモデレーターやパネリストで構成される企画セッションと対話セッション(ポスター)の参加者が異なり(前者は企業, 研究者中心、後者は学生中心)、別のイベントの様になっている。原因としてそれぞれのセッションで扱うテーマが全く異なることが考えられる(前者は政策, 後者は技術など)。今後シンポジウムの活性化をはかるためには、シンポジウムの本来の目的(と対象)を明らかにし、双方が企画セッション、対話セッションの両方に関心を持てるテーマ設定にするなどの工夫が必要。
- ・企画セッション, 対話セッション共に時間管理・配分を見直す必要がある。企画セッションではパネリストの話が長く議論の時間が不十分。対話セッション(ポスタープレゼンテーション)では発表者が持ち時間(1分)を守らないなど改善すべき点を指摘いただいた。

3.プログラム

・開会式

実行委員長(須田 義大 東大教授)

主催者(渡邊 浩之 ITS Japan 会長)



・企画セッション

① 次世代モビリティ(パーソナルビークル・スモールビークル)

モデレータ: 中野 公彦 東京大学 生産技術研究所先進モビリティ研究センター 准教授

羽田 隆志 静岡文化芸術大学 デザイン学部メディア造形学科 教授

パネリスト: 小川 浩 三菱重工業株式会社 機械・鉄構事業本部新事業プロジェクト室 室長

小林 義昭 佐用自動車株式会社 代表

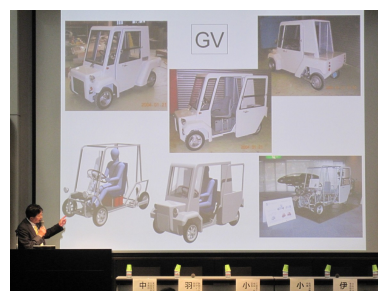
伊坂 正人 日本デザイン機構 専務理事

近藤 美則 独立行政法人国立環境研究所 主任研究員

〔議論の概要〕

アラブ首長国連邦の首長国であるアブダビの都市マスタープランで進められている環境都市作りを事例に、都市づくりとそこにおける移動手段のあり方について議論。

現実的な対応(マスタープランの事例を東京、大阪には使えない)として、例えば都市の密度を上げる(職住近接)、郊外のショッピングセンターには高い税率をかける、鉄道利用を高めるために駅の魅力を上げるなどのアイディア(意見)が出され、個の移動と全体(都市づくり、物流)も併せた検討が必要との結論となった。



② 路車協調システム

- モデレータ：上條 俊介 東京大学大学院 情報学環 准教授
 藤井 威生 電気通信大学先端ワイヤレスコミュニケーション研究センター 准教授
- パネリスト：金澤 文彦 国土交通省国土技術政策総合研究所 高度道路交通システム研究室 室長
 天野 肇 特定非営利活動法人 ITS Japan 専務理事
 赤津 洋介 日産自動車株式会社 先行車両開発本部 IT&ITS 開発部 シニアスタッフ
 太刀川 喜久男 沖電気工業株式会社 社会システム事業本部 ITS 推進センタ 担当部長

〔議論の概要〕

日米欧で進む路車協調システムの普及促進と標準化の議論。かつての、デファクトスタンダードを取ることで市場シェアを押さえるやり方が、今では製品開発と標準化を同時に進める必要がある社会となっていることが紹介された。技術が急速に進歩する（ベンチャーによる様々なアプリケーションが登場）中で個人が発信する情報と、安全のような、社会として責任ある主体の発信する情報とのバランス取りが次の課題であることが確認された。



③ 生活道路の事故ゼロとITS

- モデレータ：久保田 尚 埼玉大学大学院 理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授
- パネリスト：本田 肇 国土交通省国土技術政策総合研究所
 道路研究部道路空間高度化研究室 主任研究官
- 橋本 成仁 岡山大学大学院 環境学研究科社会基盤環境学専攻 准教授
- 福島 正夫 日産自動車株式会社
 電子技術開発本部 IT&ITS 開発部 Engineering Director
- 小嶋 文 埼玉大学大学院
 理工学研究科環境科学・社会基盤部門設計計画研究室 非常勤研究員
- 林 隆史 財団法人国土技術研究センター 道路政策グループ 首席研究員

〔議論の概要〕

生活道路の事故削減の重要性を共通認識とし、その対応策について議論。車輛側の最新技術（強制的に速度を下げるなど）の採用、「安心歩行エリア」の設定や物理的に生活道路への流入を止める「bollard（杭）」の設置などについて検討された。



④ 暮らしを支えるロジスティクス

モデレータ: 苦瀬 博仁 東京海洋大学 理事・副学長
パネリスト: 林 昌仙 特定非営利活動法人 ITS Japan 交通物流プロジェクト 常務理事
桑原 雅夫 東北大学大学院 情報科学研究科人間社会情報科学専攻 教授
吉本 隆一 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所長

〔議論の概要〕

ロジスティクスとITSについて、東日本大震災の事例をもとに物流トラックと自家用自動車間の情報(道路情報や必要な物資など)共有化の進め方、そのシステムのあり方(有事に使えるもの)、誰が主導で進めるのか、等が議論された。



・対話セッション

〔テーマ(投稿された論文を以下の4分野に分けて発表・掲示)〕

- ①交通調査・交通計画
- ②技術革新・エネルギーITS
- ③事故軽減・渋滞緩和
- ④ドライバー支援

〔ショットガン〕

各発表者が自らの研究成果(ポスター)について30秒間で説明。自己紹介とタイトルのみ説明して時間が余ったり、研究内容、成果まで説明しようとして時間が足りなくなるなど様々。経験の有無や事前練習の有無に加え、そもそもショットガンをどのように理解し活用するかで差異が生じた様子。

〔ポスタープレゼンテーション〕

各発表者がポスターの前に立ち、1分間で研究内容についてモデレーターへ説明。その後3分間の質疑発表者による巧拙がみられるのはショットガン同様。中には時間を気にせず説明を続ける投稿者もあり、今後の課題のひとつ。

〔他〕

ポスター会場では発表者が随時質疑に応じる。中には工夫した部分や訴えたい成果、ポイントを十分表現できていないものも散見された。質疑を通じ、例えば企業で資料をまとめる場合、報告する場合に気をつける点などを伝えることが、より分かりやすい資料作りの一助となるのではないかと。



【優秀論文賞】

査読あり投稿論文の中から、下記の方々の論文が特に優れているとして論文賞に選ばれた。これらの論文は英文論文誌 International Journal of ITS Research に推薦をさせていただく。

- 1-A-08 駅構内における姿勢・位置情報に基づいた行動把握フレームワーク
高橋俊允(東京大学生産技術研究所)
- 1-C-05 路上設置型一時停止支援システムの効果に関する現地実験分析
三谷哲雄(流通科学大学総合政策学部)
- 1-C-15 個人属性を考慮した高速道路図形情報板の判読特性に関する研究
宇野伸宏(京都大学経営管理大学院)
- 2-D-07 インフラ協調による二輪車巻き込み事故低減への取り組み
塚田悟之(日産自動車株式会社 IT&ITS 開発部 ITS 先行・製品開発グループ)

【ベストポスター賞】

全ての発表論文を対象にベストポスター賞の選考も行われた。研究内容の独創性、ポスターのまとめ方、要点を押えた説明力、質問へのわかりやすい回答力などが審査の対象とされ以下の方々が受賞された。

(講演番号, 論文テーマ, 講演者)

- 1-A-05 「加速度センサを用いた路面段差検出手法の改善と東北地方太平洋沖地震後の観測データへの適用」
八木 浩一(災害時交通流監視システム研究会)
- 1-B-10 「Local Dynamic Map (LDM)の設計と評価, 問題点とその対策」
佐藤健哉(同志社大学)
- 1-C-11 「環境変化やノイズに対してロバストな画像センサによる車両・二輪車計測」
小野佑樹(住友電気工業株式会社)
- 1-D-04 「初心運転者の運転能力の測定・評価に関する検討」
山田真以(名城大学)
- 2-A-10 「柏 ITS における ITS 地域情報センター構想について」
牧野浩志(東京大学)
- 2-B-04 「短距離公共交通システムと ITS ー高頻度無人輸送システム「エコライド」の適用ー」
平沢隆之(東京大学)
- 2-C-10 高速道路サグ部における ACC 車両の混入状況に応じた渋滞緩和効果
岩崎 健(国土交通省 国土技術政策総合研究所 高度道路交通システム研究室)
- 2-D-09 走光性を活用した注意喚起設備の実道実験
亀岡 弘之(中日本高速道路株式会社)

・閉会式

総括：須田実行委員長

優秀論文賞(写真左), ベストポスター賞授与(同右)：



ご挨拶： 第11回プログラム委員長 岩田 彰 名古屋工業大学 教授

第12回：2012年12月13(木), 14(金) / 愛知県立大学(予定)



閉会ご挨拶： ITS Japan 専務理事 天野 肇

以上